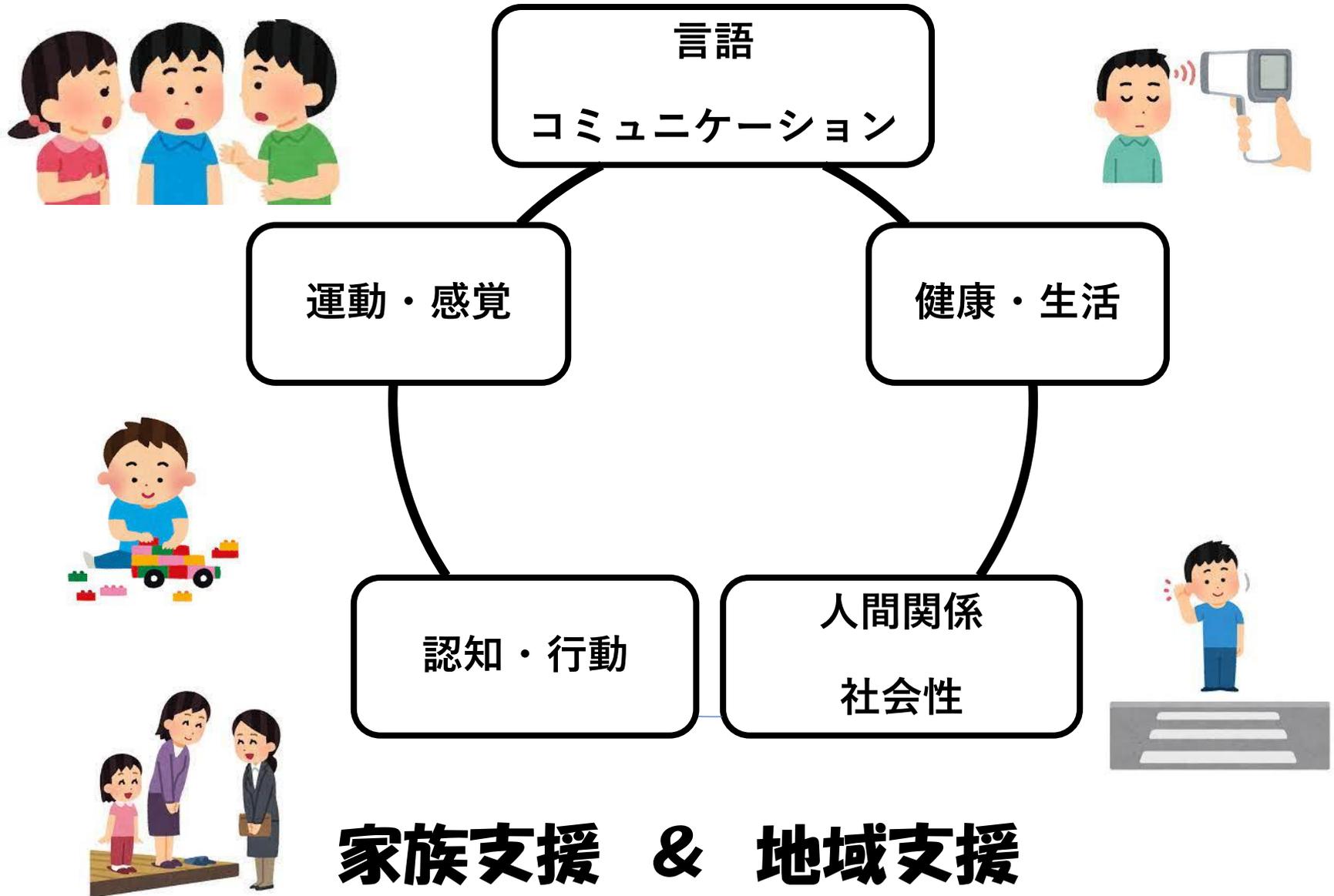


ポテンシャル小豆餅 5領域プログラム



健康・生活

・ねらい

(a) 健康状態の維持・改善

(b) 生活のリズムや生活習慣の形成

(c) 基本的生活スキルの獲得

・支援内容

(a) 健康状態の把握

健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。

健康状態の常なるチェックを行う。意思表示が難しい子のサインに気づけるように観察。

(b) 健康の増進

睡眠・食事・排泄等の生活のリズムを身に着ける支援。

食事への配慮（感覚等）、支援（咀嚼・嚥下・姿勢保持等）病気の予防・安全への配慮。

(c) リハビリテーションの実施

それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う

(d) 基本的生活スキルの獲得

身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄など生活に必要な基本的技能を獲得できるように支援する。

(e) 構造化など生活環境を整える

生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。

また、障害特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。



運動・感覚

ねらい

(a) 姿勢と運動・動作の向上

(b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用

(c) 保有する感覚の総合的な活用



支援内容

(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上

日常生活に必要な動作の基本となる。

姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化。

(b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用

姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置などの補助的手段を活用しての支援。

(c) 身体の移動能力の向上

身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、移動能力の向上のための支援。

(d) 保有する感覚の活用

保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう遊びなどを通して支援する。

(e) 感覚の補助及び代行手段の活用

感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう、眼鏡や補聴器等の補助機器を活用できるよう支援。

(f) 感覚過敏への対応（感覚過敏・鈍磨）

感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、感覚の過敏さや認知の偏りなどの個々の特性に配慮する。

認知・行動

ねらい

- (a) 認知や行動の発達
- (b) 空間・時間、数などの概念形成の習得
- (c) 対象や外部環境の認知を 適切な行動に改善

支援内容

(a) 感覚や認知の活用

視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援。

(b) 知覚から行動への認知過程の発達

環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択して行動につなげる一連の認知過程の発達を支援。

(c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成

物や空間・時間などの概念の形成を図ることで、認知や行動手掛かりとして活用できるよう支援。

(d) 数などの習得

数字・数詞対応課題、計数課題、数唱課題などの数概念の習得のための支援。

(e) 行動障害への対応

感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防
適切行動への対応の支援を行う。



言語・コミュニケーション

ねらい

- (a) 言語の形成・活用及び受容・表出
- (b) コミュニケーションの基礎的能力の向上
- (c) コミュニケーション手段の選択と活用

支援内容

- (a) 言語の形成と活用

具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけるなどにより、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。

- (b) 受容言語と表出言語の支援

話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど言語を受容し表出する支援を行う。

- (c) 人と相互作用によるコミュニケーション能力の獲得

表情や身振りなどの非言語的コミュニケーション手段などを用いて意思の伝達ができるよう支援。

- (d) 読み書き能力の獲得のための支援

聴覚に障害のある子どもや発達障害の子どもなどの障害特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。

- (e) コミュニケーション機器の活用

各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、意思伝達が円滑にできるよう支援する。

- (f) 文字言語、手話、動作によるサインの活用

手話を含む言語、文字の表示、点字、音声、触覚、平易な表現などによる多様なコミュニケーション手段を活用できるよう支援する。



人間関係・社会性

ねらい

- (a) 他者とのかかわり（人間関係）の形成
- (b) 自己の理解と行動の調整
- (c) 仲間づくりと集団への参加

支援内容



- (a) アタッチメント（愛着行動）の形成

人との関係を意識し、身近な人と真筆な関係を気づき、その信頼感関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。

- (b) 模倣行動の支援

小さな動き、大きな動き、口の動きなどを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。

- (c) 一人遊びから共同遊びへの支援

周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から、役割分担を作ったり、ルールを持って遊ぶ協働遊びを通して、社会性の発達を支援する。

- (d) 自己の理解とコントロールのための支援

自分のできることできないことなど自分の行動の特徴を理解し、自己肯定感を強める支援。

- (e) 集団への参加への支援

集団に参加するための手順やルールを理解したり、遊びや集団活動に参加できるように支援する

例えば。。

健康・生活

- 「来所時、毎回体温測定や口頭での質問による健康状態の確認」「健康チェックリストの作成と指導」
- 「保育士・児童指導員の作成したプログラムに基づき、SSTプログラムを中心としたリハビリテーションを行う」

運動・感覚

- 「ラジオ体操で、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得を行う」
- 「サーキットトレーニングなどの運動療育により、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。」

例えば

認知・行動

- 「プログラムの前に、児童に対して、日付を質問し、
数の概念の習得を図る」

言語・コミュニケーション

「プログラム中、5分以上はマンツーマンで支援を行い、指導員からの声掛けに対し、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。」

「PECSを活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。」

人間関係・社会性

「休み時間など、指導員が介入しながら、
集団参加を支援する」